

CASBEE-建築(新築)2014年版
 (仮称)グンゼスポーツクラブ京都八幡店 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.0
Q1 室内環境			0.40		0.50	2.0
1 音環境		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 騒音		1.0	0.50	-	-	
1.2 遮音		5.0	0.50	-	-	
1 開口部遮音性能	器具の遮音性能を高くし、音環境に配慮しました。	5.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境		1.5	0.47	-	-	1.5
2.1 室温制御		2.0	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		2.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		-	-	-	-	-
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境		2.3	0.33	-	-	2.3
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	-	-	
4.2 換気		2.0	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理		1.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		1.0	0.50	-	-	
Q2 サステナビリティ			0.30			2.4
1 機能性		2.2	0.40	-	-	2.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	1.00	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.30	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	-	-	
1.3 維持管理		2.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.6	0.30	-	-	2.6
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性		1.4	0.20			
1	空調・換気設備	1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	1.0	0.20			
3	電気設備	1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法	3.0	0.20			
5	通信・情報設備	1.0	0.20			
3 対応性・更新性		2.4	0.30			2.4
3.1 空間のゆとり		2.0	0.30			
1	階高のゆとり	-	-			
2	空間の形状・自由さ	2.0	1.00			
3.2 荷重のゆとり		2.0	0.30			
3.3 設備の更新性		3.0	0.40			
1	空調配管の更新性	3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20			
Q3 敷外環境(敷地内)		2.0	0.30			1.5
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30			1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	1.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性						3.1
LR1 エネルギー		4.0	0.40			3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0	0.20			4.0
2 自然エネルギー利用		トレーニングジムにトップライトを設け、環境負荷低減性に配慮しました	4.0	0.10		4.0
3 設備システムの高効率化		BEI _m 非住宅 0.56	4.0	0.50		4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)		設備の高効率化を固り、環境負荷低減性に配慮しました。	4.0	1.00		
集合住宅の評価(3c)						
4 効率的運用		2.0	0.20			2.0
集合住宅以外の評価		2.0	1.00			
4.1	モニタリング	3.0	0.50			
4.2	運用管理体制	1.0	0.50			
集合住宅の評価						
4.1	モニタリング					
4.2	運用管理体制					
LR2 資源・マテリアル		2.4	0.30			2.5
1 水資源保護		3.0	0.20			3.0
1.1 節水		3.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減		2.4	0.60			2.4
2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	3.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避		2.6	0.20			2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避		2.5	0.70			
1	消火剤	2.0	0.50			
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50			
3	冷媒	-	-			
LR3 敷地外環境		4.4	0.30			3.1
1 地球温暖化への配慮		CO2の排出の極力少なくし、地球温暖化への配慮をしました。	4.4	0.33		4.4
2 地域環境への配慮		2.3	0.33			2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.3	0.25			
1	雨水排水負荷低減	-	-			
2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.33			
3	交通負荷抑制	3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮		2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1	騒音	3.0	1.00			
2	振動	-	-			
3	悪臭	-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40			
1	風害の抑制	-	-			
2	砂塵の抑制	-	-			
3	日照障害の抑制	3.0	1.00			
3.3 光害の抑制		1.6	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30			